園だより　10月

教育目標　すくすく　ぐんぐん　にこにこ

令和３年９月３０日
第５２３号
北区立じゅうじょうなかはら幼稚園

園長　髙沢　ゆみか

サルスベリかもしれない

先日、園庭に出ていくと、年少ちゅうりっぷ組のＡさんが「ぽっくり」と呼ばれる遊具で遊んでいました。紐が付いたかまぼこ型の木に足を片足ずつ乗せて、下駄のようにして歩く昔ながらの遊びで、缶で作られたものは「缶ぽっくり」などと呼ばれています。Ａさんは、かまぼこ型の木のアーチの部分に乗ってみるのですが、なかなか安定せず、乗っては降りてを何度も繰り返しています。そして私に気付くと、「この木、サルスベリ（百日紅）なのかもしれない。だってつるつる滑るんだもの」と言いながら、ぽっくりを手に取ってしげしげと見つめました。私が、意外な言葉に驚き、感心しながら「なるほど。サルスベリなんて、聞いただけでも乗るのが難しそう。幼稚園にもその木があるわよね」と言うと、Ａさんは「確かめてこよう」と言いながら、ぽっくりを持って園庭の片隅にある百日紅の木に駆け寄って行きました。そして、ぽっくりと幹とを並べて見比べると、木肌の違いを感じたのか、「なんだかちょっと違う。これは、うちのテーブルの木とも違うと思う、だってうちのテーブルはもっと白いから」と言って、またぽっくりに挑戦し始めました。

ぽっくりに乗ることが難しい→このぽっくりは、百日紅の木でできているのかもしれない（サルも滑るって言うぐらいだから…）→比べてみると木肌の感じが少し違う→あれ？百日紅ではないのかもしれない→家庭にあるテーブルの木とも色が違う…ほんの短い時間の出来事でしたが、「かもしれない」と伸び伸びと思いを巡らせ、広げていくＡさんの“思いの旅”は、とても自由で豊かです。

幼稚園は、平成３０年度から新たな幼稚園教育要領が実施されました。続いて、昨年度は小学校、今年度からは中学校で新しい学習指導要領が全面実施されています。幼稚園から始まる学校教育が、社会の変化を見据えた新たな学びへと変わっている今、大切なのは『生きて働く知識・技能』と言われています。知っているだけでなく、知っていることを結び付けて使う力、もっている知識をつなげて活用する力を、幼児期から小中学校への学びのつながりの中で培っていくことが大切です。幼稚園の遊びや生活の中で、子どもたちは、これまでの経験から知っていることと、新たに出会ったこととを重ねたりつなげたりしながら、思い、考え、吸収しています。Ａさんも、ぽっくりがうまくいかない、なぜだろうという実際の心と体の動きがあったからこそ、すでにもっていた百日紅という知識に結び付けて、「かもしれない」と自分なりに考えたのでしょう。ぽっくりの遊びは、木肌を比べて違いに気付くという、こちらの予想を超える経験にまで広がっていきました。

心地よい気候の中で園生活がますます充実していく秋、伸びやかで個性豊かなたくさんの「～かもしれない」に出会い、驚かされることを楽しみにしています。

今月の指導のねらい

＜ちゅうりっぷ組＞

- 自分の思いやイメージを動きや言葉で表したり、友達に伝えたりする楽しさを感じる。
- みんなで一緒に過ごすことを楽しみにし、自分の動きを伸び伸びと表す。

＜さくら組＞

- 自分なりの思いや見通しをもって生活する。
- 友達と遊びや生活を進める中で、目的やイメージを共通にして取り組むことの楽しさを味わう。